

福王寺では、毎年年度末に「お初穂」として「ご寄付のご案内をさせて頂いております。

檀家さんの中には、維持費と間違えられる方がいらっしゃるのですが、お初穂は維持費ではありません。

お初穂ってなに？

お初穂志納金のお願い

早いもので年の瀬であります。今年は猛暑の年であつたのも懐かしく思います。何かと変化の多い昨今ですが、良い年としていきましょう。

合掌



「お初穂」とは、畑や海で収穫されたいわゆる「初物」を神仏へ捧げて供養する、感謝のしるしです。

福王寺でも、一年の最後に感謝の心を神仏にお供えする機会として、皆様にお初穂をお願いしております。

例年は、三千円から三万円程度、お力、お気持ちに応じて、お供え頂いております。

地方の方には振り込み用紙を同封させて頂きます。

一年の思いを込めて、仏様にお供え頂けましたら幸いです。皆さまにご本尊様のご加護がありますよう。



「悲しみ」と「歓び」

「人生樂ありや苦もあるぞ、涙のあとには虹も出る」。有名な水戸黄門の歌です、小さな時祖父がよく見ていた記憶と、歌が

印象的思い出されます。色々な意味が込められているのかと思いますが、最近読んだ本の「物語化批判の哲学」の中で次のような事がかかれていて歌詞を思い出しました。

本には、「誰かが去ることは悲しい。だがその悲しみは、独特な意味での歓びでもある」とはじめり、自身が望んだ別れもあれば、望まなかつた別れもある。けれど人と離れることでこそ、その人を尊重できる時もある。この時ははじめて去りゆく誰かが自分にとつて本当に大切な人であったこと、そしてそのことはこれからも搖るがないことを感じることができます。

大事なものを失うということは、深く悲しいことだ。しかし私達



は、自身にとつてそれがいかに重要だったのかを悲しみを通じて認識することがで
きる、何も失われない世界では、私達は大切なものの価値にアクセスすることがで
きない。

「別れは悲しいけれど、本当に大切な

人と人生の時間を過ごせた事は歓びでも
ある」。「涙のあとには虹も出る」はそう
いった気づきの歌詞でもあるのかなと思
いました。

普段の生活でも感じるのは健康など当
たり前のように思えるけれども、病など失
つてみると気がつく事。病になつても気に
してくれる人がいること、目線を変えてみ
ると日々の生活は本当に素晴らしいかけ
がえのない時間をすごしているのかもし
れません。

仏教では蓮の花の上に仏様が座つてい
ます。蓮は泥の中から綺麗な花を咲かせま

す。苦しみや悲しみがあるからこそ、仏様
のように慈悲深くなれるかもしません。

一年はあつという間ですね、日々大切
に生きていきたいです。

活動報告

昨年より寄付頂いた、大きな庭石を使って、
名誉住職の希望で石庭を作成しました。

泉さんや有志の方

のお陰で完成しま

したので、是非お

寺に来られた際は
見ていくてください。
過疎となつて

もオホーツクの名
所となるお寺であ
りますように。



行事のご案内

十二月二十一日 十時

「納め大姉」

今年最後のお大師様の縁日です。

福王寺婦人部中心でお参りしております。
是非お参りください！

一月一日 午前十一時

「修正会」（初詣）

新しい年に際し、檀信徒皆様の一年の
幸せを祈る御祈願をしております。

今年から深夜でなく、昼にお参りします。
初詣の感覚で、仏様とご先祖様に新年の挨
拶に来ましょう。

「節分・厄除け祈願、各種祈願」

二月一日（日）

福王寺

北見別院 午前十一時

二月十日（水）